

令和6年度第3回どっぶり高知旅キャンペーン推進委員会 議事概要

日時：令和7年2月19日（水）13:00～15:00

場所：高知城ホール 4階多目的ホール（高知市丸ノ内2-1-10）

《配布資料》

委員出欠表

配席図

【報告事項】

資料1 どっぶり高知旅キャンペーン 誘致・広報の取り組み

資料2 どっぶり高知旅キャンペーン 受入事業の取り組み

【議決事項】

資料3 令和6年度第五次事業計画（案）

資料4 令和6年度補正収支予算（案）

資料5 令和7年度第三次事業計画（案）

資料6 令和7年度補正収支予算（案）

参考資料1 連続テレビ小説「あんぱん」を最大限に生かした「どっぶり高知旅キャンペーン」の展開

参考資料2 「どっぶり高知旅キャンペーン 2nd シーズン」の展開

参考資料3 「どっぶり高知旅キャンペーン 2nd シーズン」の主な取り組み（検討の方向性）

参考資料4 やなせたかし・暢夫妻の「ふるさと高知」PRツール一覧

参考資料5 令和6年度第2回どっぶり高知旅キャンペーン推進委員会でいただいたご意見及び対応

1 開会

進行：高知県観光政策課 西村課長補佐

挨拶：どっぶり高知旅キャンペーン推進委員会 小西会長

2 報告事項

進行：どっぶり高知旅キャンペーン推進委員会 小西会長

（1）令和6年度のこれまでの取り組みについて

資料1 どっぶり高知旅キャンペーン 誘致・広報の取り組み

資料2 どっぶり高知旅キャンペーン 受入事業の取り組み

説明：高知県観光政策課 中村課長

高知県地域観光課 仙頭課長

質疑応答（質問・意見なし）

3 議決事項

（1）第1号議案 令和6年度事業計画（案）及び補正収支予算（案）

資料3 令和6年度第五次事業計画（案）

資料4 令和6年度補正収支予算（案）

資料説明：高知県観光政策課 中村課長

質疑応答（質問・意見なし）

第1号議案について出席委員全員の賛同を以て承認

(2) 第2号議案 令和7年度事業計画(案)及び補正収支予算(案)

資料5 令和7年度第三次事業計画(案)

資料6 令和7年度補正収支予算(案)

参考資料1 連続テレビ小説「あんぱん」を最大限に生かした「どっぷり高知旅キャンペーン」の展開

参考資料2 「どっぷり高知旅キャンペーン 2nd シーズン」の展開

参考資料3 「どっぷり高知旅キャンペーン 2nd シーズン」の主な取り組み(検討の方向性)

参考資料4 やなせたかし・暢夫妻の「ふるさと高知」PRツール一覧

資料説明: 高知県観光政策課 中村課長

質疑応答(質問・意見なし)

第2号議案について出席委員全員の賛同を以て承認

(質疑応答)

発言: 上村委員

- ・「あんぱん」を活用しても中山間地域への周遊は簡単ではない。我々の業界でも配布物やスタンプラリーなどで広く組合員に協力を仰げる体制を作れるようにしたい。

発言: 庵原委員

- ・令和7年度補正収支予算で予算を増額したが、もう少し具体的に内容を説明いただけないか。

回答: 小西会長

- ・この予算は明日開会する2月定例県議会において審議をいただくもの。今回、執行にあたり骨子となる部分を説明させていただいた。詳細な部分については、アレンジを効かせながら執行していく。
- ・本キャンペーンの予算は、中山間地域に多くの方に来ていただき、県の大きな課題である人口減少対策にも観光分野から取り組んでいこうという姿勢で予算を組んでいる。地域の食や歴史、文化などを総動員して商品を作り、プロモーションをして誘客していくということが本キャンペーンの全体としての考え方。また、「あんぱん」の追い風を生かすための予算も計上している。

発言: 小野委員

- ・私がよく聴くラジオでやなせさん特集があり、それを聴いてすごく共感し、今の人生に必要な学びを持った方だと感じた。
- ・「あんぱん」を最大限に生かした誘客と周遊は、文字で書くと簡単だが、実際は難しい取り組みだと思っている。ドラマで満足せずに「今」高知に行こうという気持ちにさせることが重要ではないか。
- ・今の時代の広報は一方的ではなく、体験を提供する方や受けた方、その周りの方などの受け皿側がメディアになれる時代。そのような方たちをどれだけ主人公にしていけるかが重要。しっかり仕組み化して発信することで広報の効果を何倍にもできる。

回答: 小西会長

- ・おっしゃるとおり、誘客と周遊という言葉はよく使っているが、特に周遊は難しい。また、広報も一方的なメディア発信だけではなく、受け皿となる方々を情報発信源にしていくように取り組んでいきたい。

発言：庵原委員

- ・以前の会議で「どっぷり高知旅」などのハッシュタグで観光客の方に投稿してもらって、その中で面白かったものに対してプレゼントがあるようなキャンペーンをしてはどうかと提案したことがあるが、先ほどの巻き込んでいくという観点で必要になってくるのではないかな。

回答：高知県観光政策課 中村課長

- ・今年度の取り組みとして、まず観光客を対象に高知のあるあるエピソードを集めた高知かるたを制作した。今後イベントなどで実際にかかるたをしてもらい、高知の魅力を知っていただきたいと思っている。また、県民向けコンテストとして、県民が県内外に誇る観光素材を募集し、ホームページで公開している。

発言：庵原委員

- ・説明いただいたものは良い取り組みだと思うが、自ら見に行かないと分からないもの。SNSを活用して「今」出会ったどっぷり高知旅をみんなで見ながらどんどん盛り上がれるような、もう少しライブ感のある取り組みがほしい。

回答：高知県観光政策課 中村課長

- ・いただいた意見とは少し違うと思うが、来年度に自分が撮った写真をどっぷり高知旅キャンペーンのポスターのように、「ど ○○ ど 高知」と文字を加えられる機能をホームページ上に実装できないか考えているところ。そういった形で自らが体感した高知を切り取って SNS で発信できる仕組みづくりを進めていきたい。

回答：小西会長

- ・我々も試行錯誤している部分はあるが、トライはしていきたい。ここをこうしたらいいといったご指摘もまたいただきたい。

発言：渡部委員

- ・我々の文化施設の方で、おもてなしで使える文化観光冊子を作成している。7つのエリア毎の文化的な特色や見所を学芸員の視点でまとめている。当初は20 ページ程度を予定していたが、市町村についてもやっていこうということで、現在80 ページ程度になっており、3月までには発刊する予定。この冊子は観光客に配るのではなく、タクシーやバスの運転手、宿泊・観光施設、道の駅などにお配りし、おもてなしのネタ帳として使ってもらいたい。また、活用してもらうため、様々な業界で説明会をしたいと考えている。
- ・令和8年度の国民文化祭では相当数のお客様が高知に来られると予想される。そのお客様に向けた施策などは考えているか。

回答：高知県観光政策課 中村課長

- ・今年度の取り組みとして、文化生活部と連携し、長い年末年始中に開いている県立の文化施設などが分かるチラシを作成した。来年度については、県全体を対象に同様の取り組みを進めるとともに、特別にお正月に開けてもらうなど、国民文化祭と絡めた打ち出しができればと考えている。

回答：小西会長

- ・今回作成してもらっている冊子は我々も研修会などで活用していきたい。

発言：森岡委員

- ・今年度のガイド養成講座などの報告をさせていただく。養成講座を実施した団体は7団体で、座学から実地ガイドコースまで養成講座をした団体は4団体だった。受講者は80名弱で、入会者は45名（うち、香美市24名、南国市16名）。一日体験会を3団体が実施し、受講者が60名で入会者5名だった。ガイドはしたくないが勉強したいために参加された方が多かった。
- ・前回の会議でガイド登録者が900名を超えていくと予想していたが、体験型の養成講座を行ってもこれから入会者はなかなか増えないと思っている。また、残念だが高齢化などで2団体が脱会する。

- ・参考資料 1 に「香北町美良布での昼食対策」とあるが、どのような対策を行うのか。

回答：高知県地域観光課 仙頭課長

- ・対策のメインとなるのは道の駅の直販所の弁当類の充実。厨房のスタッフを増員し、オリジナルメニューの開発なども進めている。他にもキッチンカーの招へいや隣の保健福祉センターを一部開放して飲食スペースとするなど、受入準備を進めている。香美市が作るパンフレットでも飲食店の情報を充実させるなど昼食難民が出ないように対策を考えている。県においても情報発信のサポートをしたい。

発言：古谷委員

- ・数日前に高知駅にアンパンマン列車が停車していたところを見たが、黄色の車体にアンパンマンの様々なキャラクターが描かれていて壮観だった。子どもの目に留まる時間帯に運行することは難しいと思うが、非常に映えるスポットということで発信すれば大きな宣伝効果があるのではないかな。また、チラシやパンフレットにおいても黄色などの活動的な色使いをしていただきたい。
- ・スタンプラリーでアンパンマンを使用することは権利的にできないのか。

回答：小西会長

- ・アンパンマンは著作権の問題で自由に使うことができない。また、アンパンマン列車を映えスポットとして行政が発信することも難しい。なお、西部ではアンパンマン列車を宿毛まで運行していただき、東部ではごめん・なはり線によって子どもたちにやなせさんキャラが見られる機会は増えていくのではないかな。
- ・制作物の色使いでは、やなせさんの明るいキャラクターを体現できるように黄色などの活動的な色使いを心がけていきたい。

発言：佐々木委員

- ・安芸市でのしらす漁見学の商品造成について、モニターツアーの様子を高知新聞に取り上げてもらったところ、運輸局から法律上のことについて指摘された。しらす漁見学と説明した場合、遊漁船だけではなく、遊覧船の許可も必要になるとのこと。また、遊覧船は知床の事故以来、規制が強化され審査はかなり厳しいと聞いている。商品造成にあたっては、法律的なことも知っておかなければならないことを実感した。

回答：小西会長

- ・商品造成にあたって各広域観光組織で苦労されていると思う。そういった事例を情報交換の場で共有していきたい。

発言：小笠原委員

- ・美良布での昼食対策を集落活動センターが頑張っているがキッチンカーがなかなか集まらない。出していただくことが可能なキッチンカーを知っている方がいればお声がけいただきたい。
- ・参考資料 3 のナイトタイムエコノミーの推進について、どのようなバージョンアップをするのか。
- ・やなせさんの子ども向け冊子が配られているが、ただ配るのではなく冊子を活用して学びを深められるような取り組みができないだろうか。
- ・高知県東部観光協議会や土佐くろしお鉄道にご協力をいただき、物部川・東部エリアのデジタルマップを作成し、それを活用したスタンプラリーを開催している。こちらの広報のご協力もお願いしたい。

回答：高知県観光政策課 中村課長

- ・ナイトタイムエコノミーの推進について、晩酌きっぷの対象店舗が現在 30 程度でほとんどが高知市と四万十市という現状である。来年度は宿泊施設からの推薦などで対象店舗を県内全域で広げていきたい。
- ・子ども向け冊子は現在小学校には配布しているが、それ以上の取り組みはできていない。物部川エリアでは企画展など子ども向け企画をされると思うので、そのようなところに平日宿泊キャンペーンと合わせて呼び込んでいくなど考えていきたい。

発言：松島委員

- ・ 8月上旬から本山町の大原富枝文学館でやなせさん関連の企画展を予定している。大原富枝とやなせさん夫妻は交流があり、妻の暢さんはお茶の先生で写真も現存しており展示もする予定。
- ・ どっぴりな場所ほどアクセスが難しくインバウンドが呼びづらいと思っていた。しかし、エストニア出身の土佐町の地域おこし協力隊の方と企画したエストニアからの8名のツアーがすぐ売り切れた。内容はわらじを作ったり秘境の滝に行き、ゲストハウスで自炊するなどどっぴりなものになっており、メディアの取材を呼び込みたいと思っている。
- ・ 1月と2月は厳しい時期のため、平日宿泊キャンペーンに非常に期待している。

回答：小西会長

- ・ 大原富枝とやなせさん夫妻の関係は承知している。キャンペーンでも本山町と連携を図っていききたい。
- ・ ツアーの話は大変興味深い。我々も詳しい話を聞かせていただき、インバウンドの方にもどっぴり高知旅を楽しんでもらえる広報を次のステージとしてやっていかなければならないと考えている。

発言：中村委員

- ・ 高知市と物部川エリアとの周遊キャンペーンを4月から展開する。柴田ケイ子先生にこのキャンペーン用に新たにぼうしパンのキャラクターを描いていただいた。内容はスタンプラリー、AR フォトスポット、ハッシュタグキャンペーンの3つとなっている。スタンプラリーの対象施設は8施設、AR フォトスポットは約10箇所で独自のフォトフレームが出てくる。ハッシュタグキャンペーンでは、Instagram で投稿すると抽選で特産品が当たるようになっている。
- ・ 高知市観光協会では、3月から4月にかけて南国土佐皿鉢祭や高知城花回廊、オリックスバファローズの公式戦などで観光PRを行う予定であり、本日掲示しているパネルなどをお借りしたい。また、パネルは全て複数枚づつ借りるなど可能か。キャラクターシールもノベルティとして配らせていただきたい。

回答：高知県観光政策課 中村課長

- ・ パネルは現在5セットを用意している。需要があれば増やしていこうと思っており、早めにご連絡をいただければ予約もできる。シールは平置きではなく、ノベルティの袋の中に1枚入れるなどの方法で活用いただきたい。

発言：山崎委員

- ・ 今年度の仁淀ブルー体験博は56プログラムで参加者は567名だった。事業者もリピーターが出てきており、来年度はもっと多くのプログラムを考えている。
- ・ ONSEN・ガストロノミーウォーキングを今年度初開催した。110名の参加者があり、県外のお客様が60%を超えていたため、来年度も継続して開催したい。来年2月頃にバイカオウレンをターゲットにし、日高村を出発して佐川町がゴールというルートを考えている。
- ・ 当協議会エリア内は二次交通の便が良くないため、観光タクシーに力を入れている。その中でレンタカーがないという話をよく聞くので、県の方からもアプローチしてほしい。

回答：小西会長

- ・ レンタカーが借りられないといった声は私も聞いている。現状を確認したうえでまた共有させていただきたい。

発言：富岡委員

- ・ どっぴりに連携した企画と閑散期対策として、冬の奥四万十というブランディングに取り組んでいる。冬のコンテンツが少ないため、あまり知られていない温泉を表に出していったり、冬の特徴になるものをつくって定着化させていきたい。ツアーの第2弾と第3弾などは催行できそうな集客状況であり、少しどっぴりが根付いてきたのではないかな。また、脱藩ウォークも90名を超える集客になっている。
- ・ ジャパン・トラベルが造成した日本周遊のヴィーガンツアーの1つに田舎寿司が選ばれた。カナダの

お客様が22名来られ、田舎寿司づくり体験をして食べていただく。

- ・リベルタという旅行会社が造成した、今年10月の津野山神楽の1家族15万円程のツアーが予約をいただいている。このように少しずつ販路に乗せて実績につなげていくことで商品を作っていく価値を実感できていると思っており、引き続き継続して取り組みたい。

回答：小西会長

- ・本キャンペーンの具体の取り組みを先行して行っていただいております、非常に力強く感じている。またいろいろな情報を教えていただき、横展開していきたい。

発言：三浦委員

- ・幡多エリアの各市町村で商品が造成されており、それらをつなげたりPRしていくことに来年度は力を入れていきたい。また、地域の文化や食、観光商品が楽しめるサイクリングマップを制作しつつ、全国にPRするためライドも実施する予定。しまなみ海道に負けないサイクリングのメッカにしていきたい。
- ・隣の奥四万十高知と連携し、四万十川の源流から河口までの流域に残る文化や食を楽しんでいただけるプログラムや移動手段を考えている。
- ・アンパンマン列車を西部まで運行してもらえるとということで非常に嬉しい。フォトスポットなどを色々な場面でPRしていきたい。

発言：久保委員

- ・いよいよ「あんぱん」が始まり、全国の方にやなせさんと高知に興味を持っていただけると思う。その中でアンパンマン列車はフックになり得る素材だと考えている。また、やなせ先生に生前からご協力をいただき、地域の皆様に愛されて25周年を迎えられたということをしっかりPRしていきたい。大阪のイベントや東京のフェアなどでも県に帯同して我々のアンパンマンや列車に対する思いをPRしたい。
- ・復刻した初代アンパンマン列車を4月から来年1月までの間、西部まで運行する。ゴールデンウィークや夏休みなど各時期の商機に合わせた色々な取り組みの準備も進めている。
- ・アンパンマン列車は乗車すると多くの方が手を振ってくれる。単なる移動手段としてではなく、高知県民のおもてなしといった観点で活用いただけるのではないかと。手旗を各駅に備え付けて子ども達に振ってもらうなどのおもてなしの取り組みもできたらと考えている。

回答：小西部長

- ・アンパンマン列車は西部への周遊の起爆剤になると考えている。我々も一緒に準備をしていきたい。

発言：松下委員

- ・やなせ先生に描いていただいた21駅のキャラクターをオープンデッキ車2台のうち1台にラッピングを行いリニューアルして「ものべすと」のオープニングイベントでお披露目できるよう調整している。また、物部川DMO協議会、高知県東部観光協議会と連携してスタンプラリーを実施していく。21のキャラクターの新しいグッズも制作しており販売していきたい。
- ・弊社にパネル等を貸し出してもらうことは可能か。可能であれば列車内で飾りたい。

回答：高知県観光政策課 中村課長

- ・パネルの貸し出しは可能である。
- ・アンパンマン列車の活用の観点でまたご協力いただきたい。

発言：水田委員

- ・貸切バスのツアー商品の営業をかけているなかで、「あんぱん」ではツアーを作りづらいという声があった。「らんまん」では高齢の方を含めた幅広い層がターゲットだったが、「あんぱん」はファミリー層のイメージで団体旅行に向かないと思われる。ドラマが始まればより幅広い世代に魅力を感じていただけると思うが、PR段階からアンパンマンではなく、やなせ先生ご夫妻にスポットを当ててほしい。

- ・他にも旅行会社から、香美市美良布エリアやその道中の食事場所について不安の声があった。近隣で団体での食事ができる場所を旅行会社向けに情報発信していくことが必要ではないか。
- ・団体旅行をきっかけに高知の魅力を感じた方がリピーターとなって個人旅行に再び来てもらえるような団体旅行商品づくりができたらと考えている。
- ・弊社もアンパンマン電車を2両運行している。我々や行政からのPRは確かに難しいが、庵原委員の意見のようなハッシュタグキャンペーンを通じて個人に発信してもらうことは有効だと思うので、活用を考えていただきたい。

回答：小西会長

- ・団体旅行については、高知県観光コンベンション協会の旅行会社へのインセンティブなどで対応していきたい。

発言：吉岡委員

- ・当組合のホームページを去年の秋にリニューアルした。造成中の40商品が完成した際には、こちらのホームページにも流れるような導線づくりをお願いしたい。

回答：小西会長

- ・ぜひそのように導線づくりを行いたい。

発言：近澤委員

- ・今年度の商品造成のアドバイザーとして関わらせていただいているが、一番印象に残っているのはたくさんの地域の方がやる気を持って協力してくださっていること。この商品を来年度から販売していくことになるが、すぐに結果が出るわけではなく、地域の方のモチベーションが気になりとなる。県や広域観光組織には、商品ができれば近隣でまとめて周遊するツアーとして回していただきたい。単品ではなかなか目に留まりづらいが、食や買い物を含めて1つのツアーにすると行ってみようと思ってもらえるのではないかな。そういったツアーなどを活用して今年度に協力してくださった地域の方のモチベーションが下がらないようにしていってほしい。

回答：小西会長

- ・本キャンペーンで重要なことは、地域の皆様と一緒に取り組むことだと考えている。地域の方のモチベーションが下がらないような仕組みなどを考えていきたい。

発言：野戸委員

- ・やなせさんの人柄にメディアの方々も魅力を感じている。一方で、やなせさんと一緒に高知のどこをPRできるかが広報の課題。牧野博士であれば県内中の花が咲いている場所を案内するというのが浮かぶが、やなせさんの場合は物部川エリア以外の地域とつながりにくい。どっぶり高知旅キャンペーンの中でつくられた体験コンテンツにつなげるストーリーや言葉が必要になると思うので一緒に考えていきたい。

回答：小西会長

- ・わかりやすいフレーズなどは重要だと考えるので、ぜひ協力をお願いしたい。

発言：小松副会長

- ・しまんと・あしずり号と四万十川バスについて、やっとなり有効になるとの実感がある。例えば、中村は食で有名な町だが、食と観光と宿泊が結びついていない。四万十川バスを活用することでこれらを結びつけることができる。また、幡多エリアの中の各地域において観光・文化・食の視点の商品化と周遊が完成したあと、しまんと・あしずり号で各地域を広域周遊する観光コースを作っていきたいが、それには4年間かかると思っている。
- ・近澤委員の話のように、商品を作ったあとの手立てをしてあげないと作った方がやる気をなくす。一度関わったからには組織としてずっとアテンドしてもらいたい。また、このような深掘り商品はすぐにできるものではないので、キャンペーンが終了する3年後を見据えた商品づくりをしていただきたい。

い。

回答：小西会長

- ・本キャンペーンの取り組みは地域の皆様の協力がなくては成り立っていない。地域の皆様のモチベーションを保っていけるようにしていくことは不可欠だと考えているので、引き続き皆様方のご理解とご協力をお願いしたい。

4 閉会